



東証JASDAQ上場

## 平成28年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年7月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブロッコリー

コード番号 2706 URL <http://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森田 知治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6892-2077

四半期報告書提出予定日 平成27年7月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年2月期第1四半期の業績(平成27年3月1日～平成27年5月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第1四半期	1,611	5.2	270	△41.2	268	△41.5	174	△38.3
27年2月期第1四半期	1,531	28.8	460	73.6	459	73.7	283	18.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年2月期第1四半期	5.34	—
27年2月期第1四半期	8.66	—

## (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第1四半期	5,008		3,950			78.9
27年2月期	5,236		3,988			76.2

(参考)自己資本 28年2月期第1四半期 3,950百万円 27年2月期 3,988百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年2月期	—	0.00	—	6.50	6.50
28年2月期	—				
28年2月期(予想)		0.00	—	5.00 ～7.00	5.00 ～7.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成28年 2月期の業績予想(平成27年 3月 1日～平成28年 2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000 ～6,800	△4.1 ～8.7	1,000 ～1,500	△32.0 ～2.0	1,000 ～1,500	△32.6 ～1.0	700 ～1,000	△22.6 ～10.5	21.38 ～30.55

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年2月期1Q	32,738,211 株	27年2月期	32,738,211 株
28年2月期1Q	1,323 株	27年2月期	1,323 株
28年2月期1Q	32,736,888 株	27年2月期1Q	32,736,888 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中でありませぬ。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期財務諸表 .....	6
(1) 四半期貸借対照表 .....	6
(2) 四半期損益計算書 .....	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀による金融緩和政策を背景に、円安・株価の上昇や、一部の企業収益に改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調にあるものの、円安の進行による物価の上昇や消費税増税後の個人消費の低迷など、先行きが不透明な状況が続いております。また世界経済では、個人消費が回復基調にある米国経済の一方で、中国を始めとする新興国経済の減速感・停滞する欧州経済等もあり、世界経済の見通しにも不透明感が増す状況が続いております。

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、スマートフォンやタブレット等のスマートデバイスにおいて、世界的な利用者増加と、端末自体の性能進化・通信インフラの発達に伴って、コンテンツの多様化が進んでおります。また、ゲーム専用機やブラウザゲームも、依然として底堅い人気に支えられおり、業界自体の多様化・拡大が続いております。

当社は、かかる経営環境下において、更なる事業及び収益の拡大を図るために、コンテンツ部門では、①『うたの☆プリンスさまっ♪』の売上拡大、5周年を梃に“ムーブメント化”に全力を上げる ②『うたの☆プリンスさまっ♪』に並ぶ自社コンテンツの創出に向けた体制の整備 ③トレーディングカードゲーム『Z/X (ゼクス)』の更なる挑戦と、新シリーズ制作に向けた人員育成、の3点、リアルグッズ部門の自社ライセンス製品では、①『うたの☆プリンスさまっ♪』5周年とTVアニメ3期の最大活用 ②メジャータイアップの実現 ③高価格帯ラインナップの展開と品質管理の確立、の3点、他社ライセンス製品では、①ライセンス獲得強化 ②新定番ラインナップの創出とブランドアイテム化の2点、管理部門では、①福利厚生的高度化 ②自社ビルの収益化 ③BCP準備資金の内部留保推進と、災害演習のレベルアップ ④法務部門の機能強化、の4点をそれぞれ今期の課題として推進しております。

次に、当第1四半期累計期間における部門毎の状況は以下のとおりであります。

#### (コンテンツ部門)

当社女性向けコンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』では、プレイステーションポータブル専用ソフト『うたの☆プリンスさまっ♪ All Star After Secret』を3月12日に発売いたしました。『うたの☆プリンスさまっ♪』関連では、4月からTVアニメ第3期『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ』の放映が開始されましたことと連動いたしまして、『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ アイドルソング』CDシリーズ7枚の発売を決定し、当第1四半期累計期間では、4月22日の『クロスユニットアイドルソング 一十木音也・四ノ宮那月』から、5月27日の『クロスユニットアイドルソング 聖川真斗・一ノ瀬トキヤ』まで計6枚を発売いたしました。このCDシリーズは、オリコン週間シングルランキングにて全てTOP10入りするなど、順調に推移しました。

その他の女性向けコンテンツでは、株式会社MAGES. 原作の『明治東京恋伽』シリーズ第2弾、プレイステーションポータブル専用ソフト『明治東京恋伽 トワキライト・キス』を4月23日に発売しております。また、当社初の男性専属アーティスト蒼井翔太も、4月22日に1stフルアルバム『UNLIMITED』を発売し、オリコン週間ランキング7位にランクインしており、5月には、2nd LIVE 『UNLIMITED』をTOKYO DOME CITY HALLで開催し、約4,000名を動員しております。

一方、スマートフォン向けゲームアプリ『うた☆プリアイランド』は、アプリ内のイベントやキャンペーンの実施・コンテンツの拡充等も行いましたが、上昇トレンドにならず、初期費用・ランニングコストを吸収するに至りませんでした。

また、当社男性向けコンテンツでは、トレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X- (ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス)』シリーズのブースター第12弾『魔壘の人形姫』を4月23日に計画どおり発売いたしました。昨年以来の競合他社による多数の新規タイトル発売の中、前年をやや下回りながらも奮闘しており、今夏には様々な施策や新機軸の対戦形式を全国主要店舗に導入することを決定し、「日本を代表するTCG」の理想に近づくべく反攻をスタートいたします。

#### (リアルグッズ部門)

他社ライセンス製品は、男性向けコンテンツ市場がヒット作品に恵まれ活性化している事に伴い、新規アイテムの発案・発売により、大変好調に推移いたしました。

また、自社ライセンス製品では、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズが上記TVアニメ放映に伴い、店頭や通販での販売を強化したことで、好調に推移しております。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は1,611百万円（前年同期比105.2%）、売上総利益率は39.1%（前年同期比9.7ポイントダウン）、売上総利益は629百万円（前年同期比84.3%）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、新作の発売に係る販売業務に関する費用の増加等により、358百万円（前年同期比125.1%）となりました。

上記要因によりまして、営業利益は270百万円（前年同期比58.8%）、経常利益は268百万円（前年同期比58.5%）、四半期純利益は174百万円（前年同期比61.7%）と前年同期比では前第1四半期累計期間を下回って推移いたしました。

当第1四半期累計期間の利益面では、主力商品の発売を下半期に比重を置いて予定していること及び、上記のアイテム別要因により、前年同期比では大きく下回っておりますものの、期初計画に対しましては、やや下回る程度で推移しております。

## （2）財政状態に関する説明

### （流動資産）

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は2,755百万円で、前事業年度末に比べ375百万円減少しております。現金及び預金の減少245百万円、売掛金の減少116百万円、商品及び製品の減少6百万円、仕掛品の減少8百万円が主な要因であります。

### （固定資産）

当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は2,252百万円で、前事業年度末に比べ147百万円増加しております。有形固定資産の増加153百万円が主な要因であります。

### （流動負債）

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は1,005百万円で、前事業年度末に比べ203百万円減少しております。買掛金の増加25百万円、未払法人税等の減少368百万円、その他流動負債の増加168百万円が主な要因であります。

### （固定負債）

当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は52百万円で、前事業年度末に比べ13百万円増加しております。

### （純資産）

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は3,950百万円で、前事業年度末に比べ38百万円減少しております。これは、四半期純利益174百万円が計上された一方で、剰余金の配当212百万円が行われたことが主な要因であります。

## （3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月期につきましては、前述いたしました「今期の課題」を掲げ、「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」の2つを両立する事業戦略（ツインエンジン化）をより強固かつ安定的なものとするべく推進してまいります。

通期業績予想及び配当予定につきましては、下記「※レンジ形式の業績予想及び配当予定について」に記載しております内容に基づき、サマリー情報記載のとおりレンジ形式での表示といたします。

### ※レンジ形式の業績予想及び配当予定について

「ツインエンジン」を事業戦略とする当社の売上構成は、

- A. マーチャンダイジング、マーケティングの手法が比較的通用し、努力度やPDCA等の成果が売上と利益に反映され易い、グッズ部門
- B. ユーザー評価は、その感性に委ねられ、まさに発売してみないと市場の反応が判別できないコンテンツ部門に大別されます。

更に、コンテンツ部門におきましては、売上の振れ幅に加えて、その販売数量により利益率が大きく上下します。よって当社は、期初から第2四半期終了時までは売上・利益・配当ともにレンジ形式での予想数字として、期末に近づき数字の確実性の増す第3四半期終了時に、単独数字での発表を予定しております。ただし業績の進捗を踏まえ、上記の期日以前に合理的な算定が可能になった場合には、その時点で速やかに開示いたします。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当第1四半期会計期間 (平成27年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,852,997	1,607,803
売掛金	877,470	761,128
商品及び製品	126,762	120,479
仕掛品	100,105	91,923
原材料及び貯蔵品	3,414	1,720
その他	170,472	172,752
流動資産合計	3,131,222	2,755,807
固定資産		
有形固定資産		
建物	960,714	1,119,514
減価償却累計額	△26,038	△37,075
建物(純額)	934,676	1,082,439
土地	907,414	907,414
その他	79,020	88,372
減価償却累計額	△49,557	△52,791
その他(純額)	29,462	35,581
有形固定資産合計	1,871,553	2,025,435
無形固定資産	157,886	141,596
投資その他の資産		
その他	77,727	87,566
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	75,727	85,566
固定資産合計	2,105,168	2,252,598
資産合計	5,236,390	5,008,406
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	315,905	341,361
未払法人税等	473,258	105,186
返品調整引当金	34,978	45,756
賞与引当金	29,000	20,457
役員賞与引当金	37,000	5,000
その他	318,971	487,603
流動負債合計	1,209,113	1,005,365
固定負債		
その他	38,612	52,381
固定負債合計	38,612	52,381
負債合計	1,247,726	1,057,746
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	331,775	331,775
資本剰余金	37,127	37,127
利益剰余金	3,619,618	3,581,691
自己株式	△478	△478
株主資本合計	3,988,043	3,950,116
評価・換算差額等		



その他有価証券評価差額金	621	544
評価・換算差額等合計	621	544
純資産合計	3,988,664	3,950,660
負債純資産合計	5,236,390	5,008,406

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年5月31日)
売上高	1,531,466	1,611,599
売上原価	784,523	982,086
売上総利益	746,943	629,513
販売費及び一般管理費	286,931	358,867
営業利益	460,011	270,646
営業外収益		
受取利息及び配当金	-	44
不動産賃貸料	-	964
その他	56	247
営業外収益合計	56	1,256
営業外費用		
支払利息	490	435
不動産賃貸費用	-	2,543
その他	-	18
営業外費用合計	490	2,997
経常利益	459,577	268,905
特別損失		
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	0	-
税引前四半期純利益	459,577	268,905
法人税等	176,111	94,042
四半期純利益	283,465	174,862

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。